

# プロジェクト名：ジョージア州アトランタにおける公共交通機関の形成/運営の国際化に関する基礎的研究

代表者：宮田伊知郎（教養学部・准教授）

## 1 調査の問題関心

本プロジェクトは、公共交通機関の日米関係史に関する萌芽的研究である。きっかけは、ジョージア州アトランタ大都市圏の公共交通機関 MARTA（電車/地下鉄及びバス）の（電車）車両ならびにシステムが、日立製作所製であることを発見したことにあつた。連邦政府や州の税金を投入し建設/運営される「公共」の交通機関が、どのような文脈で、海外製の車両の導入を許したのか——この問いに答えることは、いかに 1970 年代ないし 1980 年代のアメリカ南部都市がグローバル化を進めていったのか——南部史の喫緊の課題である——を考察するスタートになる。したがって、本プロジェクトでは、どのように日本が地下鉄ならびに電車産業を海外に輸出していったのかという点に焦点を絞り、調査を進めた。

## 2 調査の過程

(1)文献資料の収集と、(2)史料分析のための環境形成の柱を二つ用意することで調査を進めた。

### (1) 文献資料の収集

まず、国立国会図書館にて、電車に関する雑誌——『鉄道ジャーナル』等——のバックナンバーにあたり、該当箇所を複写した。さらに業界団体報告書の該当箇所をコピーした。なかでも『鉄道車両輸出組合報』は、戦後日本における電車車両の輸出がどのように展開したのか、またそうした展開がどう戦後復興の要として解釈されていたのかを調べるために最適の史料であつた。さらに、交通機関関連の古書を取り扱う書店をめぐり、一次史料となる書籍を探し、購入した。とくに高度成長期の日本において、地下鉄など都市公共交通機関の充実化が、国際都市化のなかで理解されていたのか調べることを可能にする史料を求めた。入手した一次文献は以下の通り。

天野光三『都市交通のはなし』I・II 技報堂出版、1988年

岡並木『新しい交通』りくえつ、1979年

斎間亨『新交通システムをつくる』筑摩書房、1994年

藤本均『地下鉄の時代』たちばな出版、1997年  
角本良平『世界の都市と交通——モビリティの理想と現実』りくえつ、1980年

曾根悟『新しい鉄道システム——交通問題解決への新技術』オーム、1987年

倉島幸雄編『日本乗合交通編年史』たいせい、1995年

日本地下鉄協会『世界の地下鉄——115 都市の最新事情』山海堂、2000年

(3) 史料収集とあわせて、複写をした史料をすべてデジタル化し、場所・時を選ばず閲覧・分析できる環境形成に努めた。スキャナーや OCR 加工のためのソフトウェアは入手済みなので、タブレット端末 iPad や Wifi 設備を購入し、機動的に研究に従事できる環境を整えた。

## 3 調査の結果ならびにこれからの展望

学会発表もしくは刊行論文などの結果を残すことはできなかったが、公共交通機関のグローバル化に関する研究の基礎の構築、ならびに、研究環境の充実化は実現できた。戦後日本の公共交通——とりわけ地下鉄——の海外展開プロセスの調査を可能にした前者では、戦後賠償による東南アジアならびに南アジア地域への電車車両提供が、70～80年代における車両または運営システムの——いわゆる先進国を中心とした——海外輸出へと転じていく様を観察することができた。さらに、日本が都市公共交通機関のグローバルな展開を主導するある種の起源を、戦後ならびに戦前における車輛製造産業につなげることが可能になった。これからの研究では、この産業がどのような文脈（日米貿易摩擦などのなか）で、ポスト公民権運動期におけるアトランタの地下鉄形成につながっていったのかを分析することが最重要課題となるだろう。